〒745－0034　周南市御幸通２丁目22
防長本社　Eメール　bocho@chugoku－np.co.jp
中国新聞山口　Eメール　chugoku@c－spice.co.jp
情報サービス　URL　http://www.c－spice.co.jp
☎0834(33)5605　FAX0834(33)5610

ホッと通信

教育・文化

にしゃんたのやまぐち日記 ⑦

手に持たぬ美学 和の心

空手に教えられたこと

僕が小さいころ、スリランカで一番有名な日本人男性といえば、みんなが口をそろえて「ブルース・リー」って信じていました。彼が主演の映画を見に行っては、細い身体で、大男を投げ飛ばすシーンをぽかんと口を開けて見ていたり、自作のヌンチャクを振り回し、自分の頭に当て血を流したりしたものです。

そんなわけで、日本に来て成し遂げたい夢の一つに格闘技を学ぶことがありました。京都でまだ学生のころ、アルバイトの新聞配達をしている道沿いにあった道場の門をたたいてやっとかなえられました。すばらしい先生と仲間に恵まれて、空手のことをたくさん学びました。先生は「出世払いでいいよ」と、僕からは月謝を一銭も受け取ってくれませんでした。

すばらしい日本の文化を学んだ僕は、いつかお返しをしたいと思い始めました。山口の大学での仕事が決まったのはそのころでした。入学時のオリエンテーションで女子学生の多さに圧倒され、少し小さくなっている男子らとしゃべっていると、誰からとなく「空手クラブをつくろうよ」という声が出て、すいすいと話がまとまったのです。

僕も一応、空手四段と指導員と審判員の免許を持っていたことが役に立ち、新設なのに大学で一番大きいクラブになりました。みんな忙しい中、週二回の練習を頑張った甲斐あって、県大会で入賞する仲間も出ました。空手部の活動が評価され、就職活動がうまくいった学生もいました。みんなすごく成長しましたが、一番変わったのは僕かもしれません。

京都時代、ブルース・リーのように自分が強くなったと思いこみ、いつも肩で風を切って歩いていました。拳をわざと傷付けて周りを威嚇したり、最初は道場に通うとき、胴着や黒帯を見せびらかしていました。腕っ節に少し自信があって、けんかを売られたら買うだけでもなく、こっちから売ることもありました。

それが、今では僕が空手を知っていることさえも信じてもらえないときがあります。何かあったら先に謝り、道も人にぶつかるといけないので端っこを歩きます。空手は僕に、人間は鍛錬によってどこまでも強くなれることと同時に、人がいかに脆いかということを教えてくれました。

今は弱肉強食の時代です。ちょっとした争いでも、力を行使したり誇示することで相手を従わせようと考える人がたくさんいます。国際政治の世界では、核を所有する大国が支配し、それに対抗するために核を持とうと必死になっている国もいます。

空手が僕に教えてくれた最大のことは「手を空っぽにする」美学のような気がします。それは、戦争や争い事が絶えない世界でいま必要とされている、普遍的な日本文化の心を表現した最たるものだと思います。

（県立大国際文化学部講師　J・A・T・D・にしゃんた）

イラスト・石井彩子

一杯両手の荷物の数を当
りぬ　越水　幸子
沿線の家並み縫いゆく電
車より束の間みゆる横向
きの犬　谷野　裕子
交差点に止まれば空の明
かるかり角の野菜屋壊さ
れていつ　越智　治子
磯の香を伴ひながら風渡
り疎林に笹のざざめき止
まず　木辺　陽子
レッテルをはがさむとし
て手控へぬ手前の顔はそ
れだけのもの
弘兼　安雄

◆山口市合同短歌大会入賞作品

【講師者選】

◇最優秀賞

友と二人並びて座る土手
の上冬ざくらとふを眺め
てをりぬ　寺本きよ子

◇優秀賞

汲みおきしバケツの水に
今朝薄く風紋残す氷はり
たり　山本　敦子
降りしきる今宵の雪は積
るらん夕辺の畑にて大根
とりこむ　岡山　孝子
陸橋はとり払われて見馴
れたる町にかぁーんと冬
の空あり　林　睦子

◇佳作賞

職辞す日秋空あおぐ夫の
肩重しのいたか浮くがに
見ゆる　松永　良子
小さくてかたい蕾のバラ
は咲き開かずおわる太き
つぼみよ　中島千恵子
亡き夫の好物でありし玉
子焼を今日も娘の弁当に
入れる　平田　牧子

◇特別賞

鼻の穴大きと言はれし其
の日より私は毎日人の鼻
見てる　浦部　王子

会
冬の海漁舟や
り
雨降りて人影
海
冬浪の飛沫浴
碑
廃船を打つ波
挽ぎ残す烏の
柿
冬日和漁舟澤
しんしんと雪
話かな
人を呼ぶ声遠
海
冬の海満ち来
てり
寒雀来よと
庭
嬰やかに寄せ
の海
冬の海煙れる
雨

◆草の会

雪五寸右往左
目
前うしろ交
焚き火
姑と嫁はず
初風呂や四

りご）を生み
がいのちなり
終章はいつの
かなる心にあ
憶ふ日
独り身の不思
送りつつ夫逝
とせを経ぬ

俳

◆由宇町文